



つながろう

CO・OPアクション情報

2012年1月25日

第11号

◆震災を経験した者同士、 気持ちが通じ合う



みやぎ生協
理事 大和 きよ子氏

今日はお天気に恵まれて、楽しく歩けました。神戸は初めてですが、街を見ていると「頑張ればまたきれいな街を取り戻せるんだ」という気持ちになります。その一方で、今の状態に戻すまでにかかった年数を聞くと「これから、まだまだ大変だな」という思いも湧きました。

震災を経験していて、ボランティアにも取り組んでいるという共通点のあるコープこうべの皆さんとは、話していても気持ちが通じあうような気がしました。石巻市の自宅は津波で流され、今は仮設住宅に住んでいます。悩みはありますが、家族は幸いにも無事でしたし、神戸の皆さんと出会い、優しくしてもらった上に、こうやって神戸に来ることもできたのだから幸せだなと思っています。

神戸と宮城つなぐ、鎮魂と再生への祈り

～コープこうべ、みやぎ生協組合員を招き、三宮を共に歩く～



東遊園地「1・17 希望の灯り」(神戸市・中央区)前にて。さまざまな思いをかみしめた。

阪神・淡路大震災から17年目を迎えた2012年1月17日、コープこうべは震災にまつわる記念碑などを巡る「震災モニュメントウォーク」に、東日本大震災以降、支援を通じて交流してきたみやぎ生協の組合員と役職員10人を招待しました。コープこうべの組合員と役職員43人を含めた計53人が参加、共に歩き、鎮魂と再生への祈りを捧げました。三宮駅前を午前9時過ぎに出発し、前半は「1・17 希望の灯り」がある東遊園地など、犠牲者の魂を鎮めるモニュメントを中心に回り、後半は防災機能を備えた公園や生協運動の父・賀川豊彦ゆかりの地などを巡る1時間45分ほどのウォークとなりました。「震災から10カ月たちましたが、すぐ先のことを考えれば不安は尽きないと思います。でも、もっと先、たとえば17年ぐらい先の未来のことなら考えることが希望の一つになるかもしれない。そうあってほしいという思いで今日のご案内しました」とガイド役のコープこうべの林律子さん。神戸の街は美しく整備されましたが、慰霊碑の前では、涙を流し手を合わせる人の姿も。震災の傷痕を忘れずに、前に進んできた神戸の姿は、宮城の方々にも何かを残したことでしょう。



交流会の様子。熱心に語り合う参加者たち。

午後は今後を語ろう交流会開催

ウォーク終了後、コープこうべ生活文化センターへ移動し、鎮魂碑への献花を行ないました。その後の交流会では、みやぎ生協の参加者は、震災体験者であるコープこうべの皆さんに、具体的な質問を投げかけ、アドバイスを受けていました。また、コープこうべでは、全店舗で一斉黙とうやメモリアル展なども行なわれ、震災の犠牲者を追悼しました。